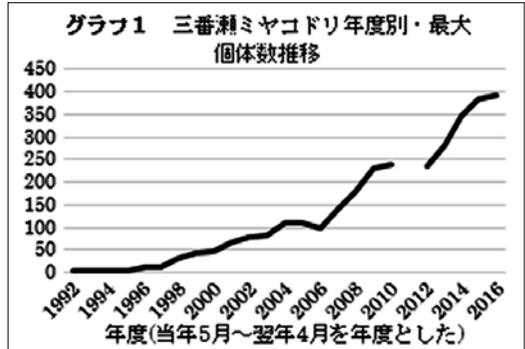


東京湾のミヤコドリ・2 千葉県市川市・船橋市 三番瀬

遠藤 源太

1. 三番瀬への飛来状況

三番瀬では、船橋海浜公園が造成される1986(昭和61)年以前から1～2羽程度が観察されていました。定例観察会が始まった1996(平成8)年以降、明らかに増加傾向が進み、昨年は400羽近くが確認されています〔グラフ1〕。グラフの観察数は定例観察会でのデータを主としていますが、定例観察会以前の数値は有志による観察会記録と会報『ユリカモメ』のバックナンバーからの記録を付加したものです。データ欠落部分は2011年の東日本大震災による影響で、公園が1年間閉鎖されて観察ができなかったためです。



2. 25年間の月別累計観察数

ミヤコドリは渡り鳥ですが、三番瀬では冬期である11月から3月までが多く、4月以降減少しています〔グラフ2〕。他のシギ・チドリ類は4月中旬から5月初旬にかけて最大数となることから考えると、三番瀬は日本におけるミヤコドリの有数の越冬地であると考えられます。またここ数年40羽程度が越冬しており、三番瀬ではミヤコドリを年中見ることが出来ます。



3. 観察される場所と行動

ミヤコドリは他のシギ・チドリ類と同様、潮の干満に沿って行動しています。地図で記した通り、人の影響がなければ規則的に行動するのですが、釣り人やマリンレジャー客の接近、貝を採る人の増加などで落ち着かず、船橋側三番瀬から市川側や葛西へ飛び去ることがあります〔図〕。この場合、最短の陸上飛行ルートではなく、遠回りですがディズニールランドの沖を回る海上ルートで飛行します。葛西から三番瀬へ戻るときも同様でした。近くの谷津干潟にこないのは、この性格のためでしょうか？

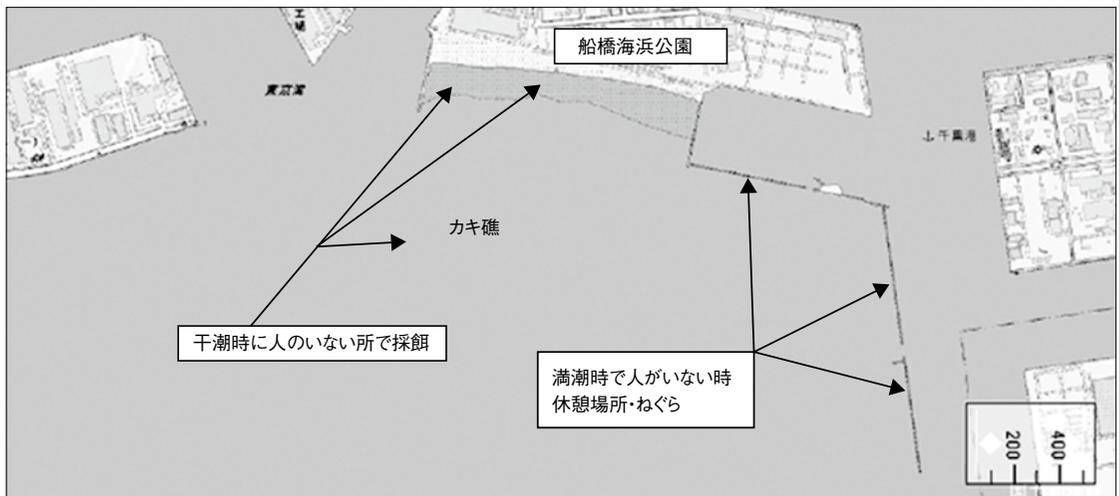


図 三番瀬におけるミヤコドリの活動状況